

● 外構計画（続き）

解説スペース

- ・七十七場巡りの導入部として、解説スペースを経て公開・普及・活用室に入室した後、常識門方面へ進むような、一連の体験を創出する。
- ・団体でのガイダンス等にも対応できるような滞留空間とする。

広場スペース（南）

- ・現状の広場の大きさを踏襲し、景観を整えつつ、周囲の木々に憩えるベンチを配置する。

広場スペース（東）

- ・現在職員用駐輪場となっている一角に、運動施設側の空間と一体となった、開放感のある待合等のスペースを設ける。

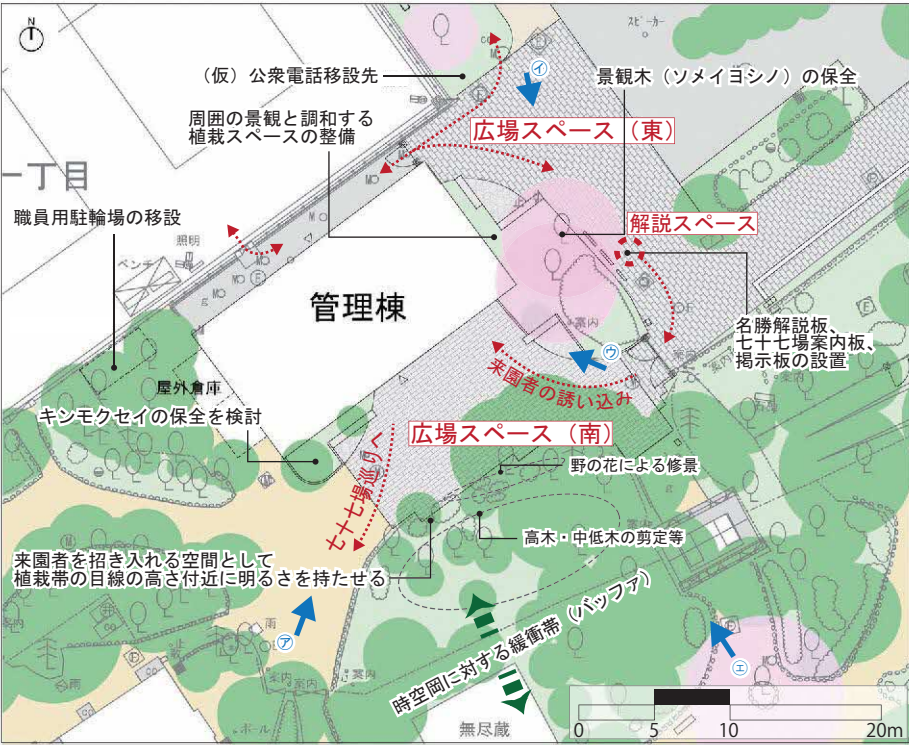
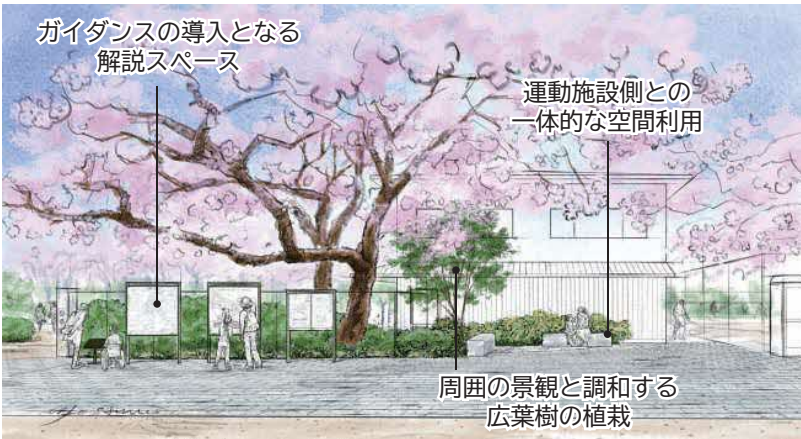
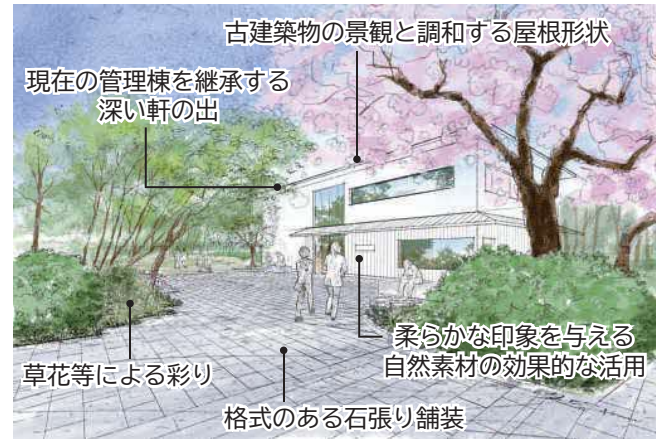


図3 外構計画の概要

イメージパース

※今後の設計により変更等となる場合があります。



今後のスケジュール（予定）

- ・哲学堂公園一帯が名勝指定地であり、かつ、埋蔵文化財包蔵地として指定されている。加えて、計画地付近には哲学堂七十七場の1つである「讃仰軒」があったとされ、慎重な対応が必要となる。令和7年度に建築物周辺の試掘調査を行った後、設計等へ進む。
- ・解体工事に先立ち、仮設棟の建設、引っ越しを行う。

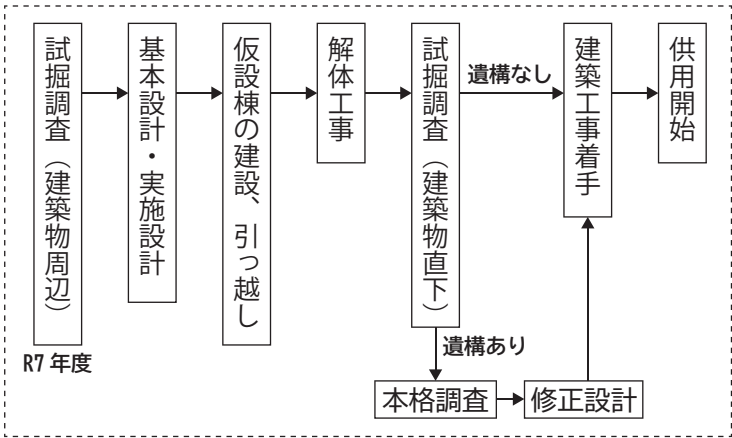


図4 管理棟再整備の事業フロー



図5 仮設管理棟の想定位置

名勝哲学堂公園 管理棟再整備の計画概要について

現状と課題

● 既存建物の劣化

- ・整備後約 50 年が経過する施設で、内外壁にクラックが見られるなど、損傷・劣化の進行が懸念される。

● バリアフリー等への未対応

- ・2階にある事務所受付までの動線、トイレ、更衣シャワー室等がバリアフリー対応されていない。
- ・授乳スペース等の子育て支援施設、救護室等が備わっていない。

● 運動施設利用のための設備・管理運営業務の不足

- ・更衣室やシャワー、トイレ等の施設の拡充と、公園管理者用の各種バックヤード、倉庫収納の確保・充実が求められている。

● ガイダンス・展示機能の見直しの必要性

- ・公園の紹介や文化財としての価値に関する展示、解説等を行える場所が十分でない。
- ・上位計画※において、ガイダンス機能やガイドの活動拠点等を有する「公開・普及・活用室」の設置が求められている。

● 名勝の景観との調和

- ・哲学堂七十七場への導入部分に位置するが、既存建物はRC造で、意匠的に哲学堂公園の景観に馴染んでいない。
- ・建物前のサクラなどの樹木が建物の存在感を和らげており、名勝の景観を構成する重要な要素ともなっている。

※上位計画：「名勝哲学堂公園保存活用計画」（令和5年3月）、「名勝哲学堂公園再整備基本計画」（令和6年3月）

再整備の方向性

- ・「名勝哲学堂公園保存活用計画」において、哲学堂公園の地割を変えることなく保存することが定められているため、既存建物と同等の位置、範囲（図1のとおり）で建替を行う。
- ・建物として必要な機能を確保し、名勝としての景観の調和を図るため、新たな管理棟は地下1階＋地上2階の3階建てとする。

既存建物	新築2階建	新築3階建	新築地下1階＋2階建
延床面積 289㎡	見込み延床面積 370㎡程度	見込み延床面積 550㎡程度	見込み延床面積 550㎡程度
	○ 景観への影響が小さい。 × 必要な機能を盛り込むのに十分な面積が取れない。	○ 必要な機能を盛り込むことができる。 × 景観への影響が大きい。 × 用途地域による10m高さ制限のため、階高が低くなる。	○ 必要な機能を盛り込むことができる。 ○ 高さを抑えられるため、景観への影響が小さい。 × コストは最も高い。

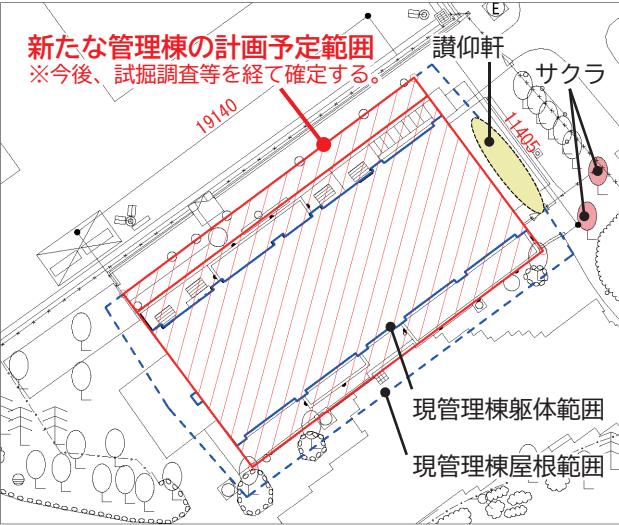


図1 新たな管理棟の計画予定範囲



現在の管理棟



展示コーナーはトイレへの動線ともなっている



哲学堂七十七場の導入部分に位置する

● 基本的考え方

新たな管理棟は、以下の方針のもと計画する。

人と緑と文化をつなぐ、学びと交流の創造拠点

① 哲学堂公園の歴史・文化を守り、継承し、発展させるための拠点となる施設

哲学堂公園の歴史的、文化的価値をわかりやすく伝えるガイダンス機能を盛り込むとともに、地域や人材育成の活性化、教育や学習機会の提供など、名勝としての魅力を発信していく場として計画する。

② 公園内での多様な活動をサポートする誰もが使いやすい施設

本施設を中心として哲学堂七十七場や運動施設等との一体的な活用を図るとともに、園内インフォメーションやトイレ、子育て支援等の便益機能の充実を図り、誰もが使いやすいユニバーサルデザインの考え方に沿った計画とする。

③ 園内の樹木や古建築物等の風致景観と調和した施設

長い年月をかけて形成された緑や歴史的な古建築物の景観との調和を図りながら、井上円了の哲学観を体現した独自の意匠を持つ古建築物や七十七場の世界観との連続性をふまえ、来園者が心地良さと場の歴史性を感じられるような計画とする。

● 求められる機能と動線の配慮

- ・新たな管理棟に求められる機能は表1のとおり整理され、運動施設の利用者、「公開・普及・活用室」の利用者、その他一般利用者などが訪れる多用途な施設となる。
- ・施設の計画予定地が、運動施設（野球場及びテニスコート）と哲学堂七十七場エリアの境界部に位置するため、施設内外の動線に配慮して計画する。

※具体的な諸室規模、配置等は、今後の設計において検討する。

表1 新たな管理棟に求められる機能

機能種別	主な整備内容
管理事務機能	事務室※、職員更衣室等、倉庫
運動施設利用者サービス機能	シャワー、更衣室
ガイダンス機能	公開・普及・活用室
その他公園便益機能	トイレ、救護室、授乳室等

※運動施設利用者の事務手続の場としての機能も有する。

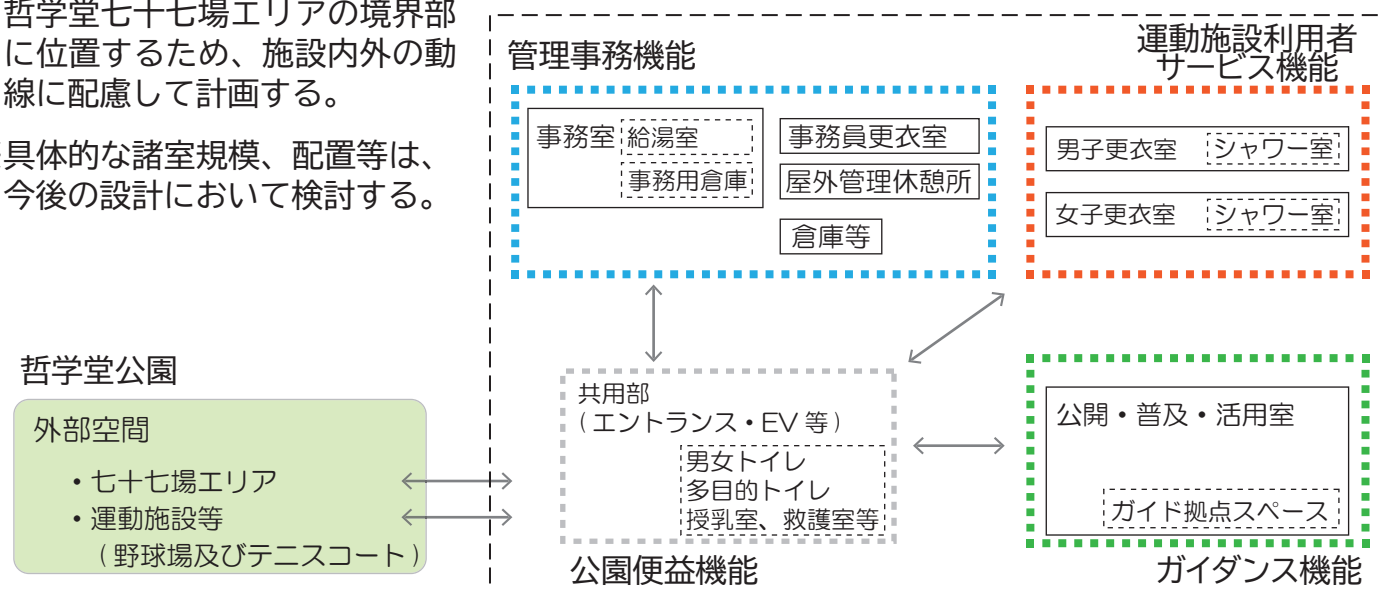


図2 機能の相関図

● 文化財の公開活用に関する「公開・普及・活用室」について

哲学堂公園は、精神修養をテーマとし、歩きながら哲学に触れることができる他に類をみない公園だが、その価値は現地を見ただけでは分かりづらく、難解である。

事前に知識を得たうえで、七十七場に込められた意味を深く実感することで、哲学堂公園の本質的な理解が促される。そこで得られたさまざまな発見や疑問は、さらに身近な物事を“哲学する”ことにつながっていく。

そのきっかけを創出することは、創設者の井上円了が考えていた社会教育施設の理念につながり、哲学の継承にも寄与するものである。



井上円了（1858～1919）

哲学堂公園の歴史や文化をわかりやすく学び、“哲学”への入口を担う場を設ける

① 哲学堂公園での体験に備えた知識を習得できる導入展示・解説等

公園の趣旨や沿革、井上円了の生涯や思想等を学び、園内での哲学体験に備える展示・解説を行うとともに、現地見学等に資する各種インフォメーション機能を設ける。

② 哲学に関心を持ち、主体的に活動する人材の育成に寄与する学習・交流機会の提供

ボランティアガイドの自主研究や、イベント・講座の開催など、地域や人材育成の活性化、相互交流が促されるような場と機会を設ける。

③ 古建築物や収蔵品など、関連施設が持つ多様な情報の集積と発信

定例公開している古建築物の内部や、関連施設に保管・展示される数々の収蔵品等の情報を集約し、文化財に身近に触れることのできる機会を提供する。

《導入するガイダンス機能の方向性》

哲学堂公園の歴史と沿革について

哲学堂七十七場について

創設者・井上円了について

保存活用、調査、整備等について（情報発信）

特定テーマについて（企画展示等）

→解説パネル、映像展示、端末視聴、イベントスペース等を想定し、今後の設計において検討する。運営等に当たっては、中野区立歴史民俗資料館や、東洋大学井上円了記念博物館等との連携を検討する。

● 外構計画（図3）

《基本的考え方》

- ・現在の景観的な調和を尊重し、建物が木々の間に佇むよう計画する。
- ・建物の周囲に、空間の襞（ひだ）となる小さな広場スペースを点在させることで、奥行きを持った風景をつくり出す。
- ・建物東側のサクラ（ソメイヨシノ）は景観木として保全し、建物南側の植栽帯は時空岡との緩衝帯（バッファ）として維持しつつ、草花等による彩りを与える。

《①常識門からの視点》



キンモクセイの保全を検討し、景観的な調和を維持する。

《②運動施設側からの視点》



薄暗い印象のある一角を、明るく訪れやすい雰囲気となるよう改良する。

《③哲学閣からの視点》



七十七場巡りの導入部として、建物へと来園者を誘い込むよう計画する。

《④時空岡からの視点》



管理棟が目立たないよう、中高木によるバッファを維持する。